

【目的】整形用肌着による身体圧迫が唾液の消化反応にどのような影響を及ぼしているか、また、影響があるとするならば、それが加圧部位によってどのように修飾されるかについて知見を得る目的で実験を行った。

【方法】被験者は、環境温 $26 \pm 2^{\circ}\text{C}$ の実験室で、ショーツとゆとりのあるワンピースのみを着用し、90分間椅座安静を保った後、ロング丈のガードル (LONG) ・ショート丈のガードル (SHORT) ・ポデイスーツ (B. S.) のいずれかを60分間着用し、その後整形用肌着を脱衣して40分間安静を保った。その間、唾液重量・アミラーゼ濃度・ヨウ素でんぷん反応による消化反応時間を測定し、着用感アンケート・衣服圧測定を行った。

【結果】加圧による唾液重量の減少・除圧によるその増加が、LONG着用時において最もよく認められたが、SHORT着用時・B. S. 着用時にはこれらの現象はあまり認められなかった。加圧によりアミラーゼ濃度が減少する傾向・加圧による唾液の消化時間の遅延が、LONG着用時・B. S. 着用時に認められたが、SHORT着用時にはその傾向は認められなかった。これらの結果について、衣服圧の面から考察を加えたい。